

乳児期～幼児期の予防接種スケジュール

2024年4月以降に接種がスタートした場合（任意接種も入れたパターン）

必ずしも急がないので欧米のように2ヶ月開けてもよい



※インフルエンザは上記の図には示していませんが、生後6ヶ月から接種できます。

乳児期の標準的な予防接種プラン



1歳以降（幼児期）の標準的な予防接種プラン

1歳の誕生日が来たらできるだけ早めにスタートしましょう

プランA

12ヶ月頃

MR 麻しん 1期
風しん

水ぼうそう 初回

おたふく 1回目

肺炎球菌 追加

18ヶ月頃～

五種混合 追加

水ぼうそう 追加

18ヶ月頃と書いてありますが、多少遅くしても問題はありません。

おたふく2回目

おたふくかぜは、1回の接種では十分な免疫ができません。任意接種ですが、2回目の接種をすることが推奨されています。小児科学会では、MRワクチンの2期と同時期の5～6歳での接種を推奨しています。

日本脳炎

標準的な接種年齢は3歳からですが、希望者は生後6ヶ月から接種を開始できます。3歳未満の場合は、接種量が3歳以上～成人の半分になりますが、効果にかわりはありません。千葉県や静岡県、西日本など日本脳炎に感染したブタの多い地域などでは早期接種が推奨されています。早期接種をしても定期接種として扱われます。3歳まで待ったほうが良い理由は実は何もありませんが、早期接種希望の場合は、接種券を区役所にとりにいく必要があります。日本脳炎の1期は全部で3回の注射になります。

MR 麻しん 2期
風しん

保育園、幼稚園の年長組相当の年齢になると、定期接種として受けられます。接種券（予診票）は年長組になる直前の3月頃に市役所から郵送されます。

プランB

12ヶ月頃

MR 麻しん 1期
風しん

水ぼうそう 初回

おたふく 1回目

15ヶ月頃～

肺炎球菌 追加

五種混合 追加

水ぼうそう 追加

15ヶ月頃と書いてありますが、多少遅くしても問題は 없습니다。

のんびりと3回に分けて接種したい



ちょっと
おすすめ

12ヶ月頃

MR 麻しん 1期
風しん

水ぼうそう 初回

15ヶ月頃

おたふく 1回目

肺炎球菌 追加

18ヶ月頃～

五種混合 追加

水ぼうそう 追加

インフルエンザ

生後6ヶ月以降であれば、接種できます。有効性は他のワクチンに比べて低いといえますが、6歳未満の小児を対象とした研究では、発病防止に対するインフルエンザワクチンの有効率は60%と報告されています。言い換えると、発病を予防したり、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるということです。また、米国予防接種諮問委員会は、生後6ヶ月～成人に接種を推奨しています。当院のインフルエンザワクチンの接種日程、予約方法については、毎年夏にホームページ上でお知らせし、10～12月頃に接種します。

三種混合

小学生以降になると、五種混合に含まれている百日咳ワクチンの効果（抗体）が低下してくるため、小児科学会では、MRワクチンの2期と同時期の5～6歳での接種を推奨しています。

MR 1期

Measles Rubella 1st

水ぼうそう 初回

Chickenpox 1st

おたふく 1回目

Mumps 1st (charge)

肺炎球菌追加

Pneumococcus booster

水ぼうそう 追加

Chickenpox 2nd

五種混合 追加

DPT+polio+Hib booster

おたふく 2回目

Mumps 2nd

日本脳炎

Japanese encephalitis

インフルエンザ

Influenza (charge)

MR 2期

Measles Rubella 2nd

三種混合

DPT (charge)

<定期接種と任意接種>
上記のワクチンのうち、おたふくかぜと、インフルエンザ、三種混合が任意接種（有料）で、他は定期接種です。

左図に加えて、インフルエンザや、日本脳炎などを同時接種することは可能です。